

## 高山長五郎と高山社

高山長五郎は、1830年4月17日に高山村で生まれ、1848年に高山家の家督を相続しました。1855年より本格的に養蚕に着手し、研究を重ね、清温育という飼育方法を考案しました。日本古来からの中心であった温暖育と、伊勢崎市の島村で考案された清涼育。清温育はこれらの長所を取り入れたものです。基本的には温暖育ですが、暖めるだけでなく、能動的な養蚕方法として、風の入れ方を考えたのです。湿度と温度、そして蚕のエサとなる桑の管理までするのが清温育です。

高山長五郎の素晴らしいところは、自分ひとりで研究したものを多くの人に広めた点です。養蚕改良高山組を設立し、優秀な門下生を授業員として、巡回教授を行ったのです。自分の企業が儲けるために教えないということの方が一般的な考え方ではないでしょうか。なかなかできることではないと思います。

その後、1883年（明治16年）に高山社を設立します。景気も良くなって、いよいよこれからという時に、残念ながら、1886年、56歳で死去されるのです。

これを継いだ町田菊次郎は、私立甲種高山社蚕業学校を藤岡に開校しました。甲種の学校を出ると当時は徴兵が免除だった時代です。私立で甲種は高山社蚕業学校だけでした。この学校がすごいのは、本科生の学費の100分の1程度で通える分教場を多く持っていた点です。分教場を卒業するのは大変だったようですが、お金の無い方々でもやる気があれば3年間学ぶことができるようにしていたのです。最終的には、分教場が116箇所、社員が6万人、生徒はのべ2万人、授業員の巡回数は1万4千回程度と、かなり広く養蚕を教えました。残念ながら、1927年（昭和2年）に廃校になりますが、私は、教え方が素晴らしかったから高山社が減んだと考えています。全国から優秀な生徒が集まり、3年間勉強し、沖縄から北海道、朝鮮半島・中国まで、どの地域にも対応できる技術を学ぶのです。その生徒が地元へ帰り、養蚕を普及させ、その地域が豊かになったために高山社へ来る必要がなくなったのだと思います。

